

EM生ごみ堆肥で
エコ・ガーデニング、
はじめませんか？



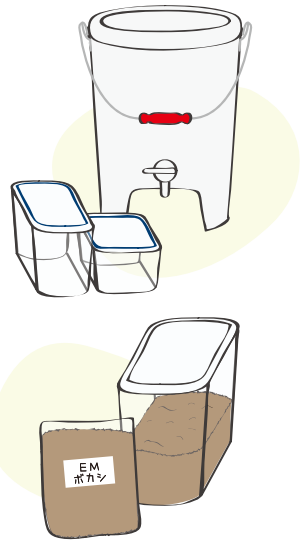
● 用意するもの

・ 密閉容器

生ごみ堆肥をつくる専用バケツのほか、いろいろな種類や大きさのタッパがホームセンターや100円ショップで販売されています。空気に触れることが多いと良く発酵しない場合があるため、しっかりと密閉できる容器を選んでください。

・ EMボカシ

EMで米ぬかなどを発酵させたもの。EM販売店などで購入することができます。自分でつくることもできます。

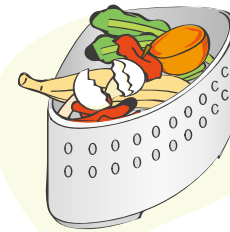


EM生ごみ堆肥を上手につくる 3つのコツ

- 1 生ごみの水分量と鮮度**
生ごみは水にぬれさず細かくし、腐敗する前に早めに処理する。
- 2 EMボカシの量**
生ごみを和え物にするように、EMボカシと良く混ぜ合わせる。多めに入れるとGOOD!
- 3 密閉**
空気に触れないよう、しっかりと密閉する。

Q&A

困ったときは・・・



Q. 白いカビのようなものがはえてきました。大丈夫でしょうか。

A. 大丈夫です。カビが発生するのは空気に触れる時間が長かったせいです。落しぶたなどで空気に触れる面を少なくしてください。畑にもどすときには、たっぷりEM・1をかけて、土とよく混ぜてください。

Q. くさいニオイがします…どうしたらいいですか？

A. 『生ごみの水分が多い』または、『生ごみに混ぜるEMボカシが少ない』のどちらかが原因です。生ごみの水切りをしっかりとるか、EMボカシを混ぜる量を増やしてください。

Q. 失敗してしまいました。虫がわいたりした場合はどうしたらいいですか？

A. 作物の影響の少ないところ（畝間など）に埋め、EM・1（またはEM活性液）の100倍希釈液を散布した後、土をかけて埋めてください。1か月（冬場は3か月）くらいすると土にもどり、肥料に変わります。

Q. 発酵液を液肥として使用しない場合はどうしたらいいですか？

A. キッチンや洗面台、浴室の排水口、トイレなどに流してください。



● 専用バケツでつくる



生ごみは水にぬれないように処理します。水分が多い場合は、新聞紙等の上で、少し乾燥させると失敗しにくいです。その日のうちに処理するのがオススメ。



バケツの底には、四つ折にした新聞紙を敷きましょう。水分を調整して、澄んだ発酵液になります。



初期発酵をスムーズにするため、底に敷いた新聞紙の上にEMボカシを軽くまき、そして、細かく切った生ごみを、ぬらさないようにバケツに入れます。



生ごみを入れる度に、EMボカシを一握り分(20~30g)振りかけ、生ごみを和えるようにします。(夏場はボカシを多めに!)



生ごみが空気にふれる面を少なくするため、中フタをします。(新聞紙やビニール等で代用OK。堆肥として土と混ぜる際、新聞紙も一緒に入られます。)



バケツのふたはしっかりと閉めましょう。(空気に多く触れると、しっかりと発酵しない場合があります。)



EM生ごみ堆肥の容器の底にたまった液を『EM生ごみ発酵液』と呼びます。発酵液は、溜めたままにすると腐敗しますのでこまめに振きます。



生ごみが容器の8分目になったらしっかりフタをして、直射日光のあたらない場所で1~2週間熟成させます。(気温が高めの時は、早めに処理します。)



ぬか漬けのような匂いになれば成功! さあ、EM生ごみ堆肥を使って花や野菜を育てよう!



● タッパなどでつくる



生ごみは水にぬれないように処理します。水分が多い場合は、新聞紙等の上で、少し乾燥させると失敗しにくいです。その日のうちに処理するのがオススメ。



タッパに生ごみを入れ、生ごみの量の2/3から同量のEMボカシを入れ、良く混ぜます。



このとき、キッチンバサミなどで生ごみを小さく切るとEMボカシと生ごみが良く混ざり、より発酵しやすくなります。



生ごみとEMボカシを入れる度に、しっかりとフタをして密閉します。



白いカビが生えても大丈夫。



タッパがいっぱいになったら、フタをして、熟成させます。



2週間~1か月ほど経過後、いやなニオイがしなければ成功です! 土の量の1/4ほどを混ぜて使います。

あると便利!

菜園EMパウダー

EM生ごみ土づくりのときに、菜園EMパウダーを0.1~1%入れると、EMの働きが安定し、品質が良くなります。直接土に散布することも出来ます。また、週に1回程度水やりのときに混ぜてもOK(1ℓに小さじ0.5杯程度)です。 < 400g 1,000円(税抜) >

● つかいかた

● EM生ごみ堆肥

・畑や庭でつかうとき

出来上がったEM生ごみ堆肥を、畑の畝間に入れ、その上に土を盛ります。このとき、**EM生ごみ堆肥を1ヵ所に固めて入れずに、土とよく混ぜ合わせて入れます。**EM生ごみ堆肥を固めて入れると、生ごみに含まれる水分が多いため、腐敗を起こす原因となり、ウジなどの虫が発生する恐れがあります。

植木などに使用する場合は、深さ20～30cmほどの穴を掘って埋めます。このとき、EM生ごみ堆肥は、単独では酸性が強いため、作物や植物の根に直接触れないようにしましょう。(畑に入れてから、土が酸性化する心配はありません。)

・プランターでつかうとき

プランターでEM生ごみ堆肥を使用する場合は、まず最下層に鹿沼土(または赤玉土)を入れてから、その上に腐葉土を入れます。**中層にEM生ごみ堆肥を入れて、上から土をかぶせ、良く混ぜます。そして、発酵を促すため、EM1の100倍希釈液をかけ、ビニールをかむせて約1ヵ月間熟成させます。**1ヵ月後、タネや苗などを植えてください。

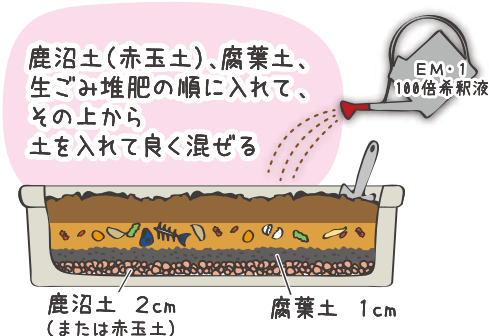
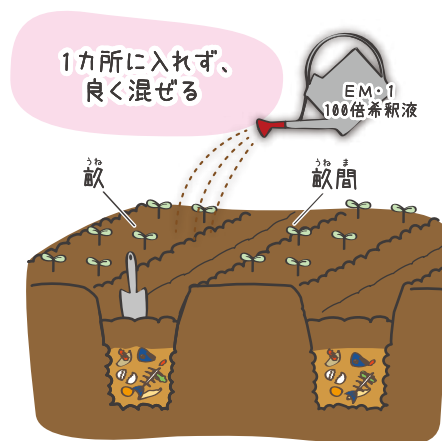
EM生ごみ堆肥は、約1ヵ月ほどで土に戻ります(冬は3ヵ月後)。EM生ごみ堆肥を繰り返し土に入れていっていると、コロコロした黒く良質な土になります。ときおり、ミミズなどが発生することがありますが、これは良い土に生まれ変わった証拠です。

■ 古い土を再利用するとき

鉢底石や枯れた根、雑草などを取り除きます。草や根は、生ごみと混ぜて利用します。

■ 使い切れずに残ったとき

プランターで土づくりをするときの手順を、スチロール箱で行います。この場合、鹿沼土の代わりに腐葉土を多めに入れます。生ごみ堆肥と土をよく混ぜてから、保湿と保温のために上からビニールをかけます。

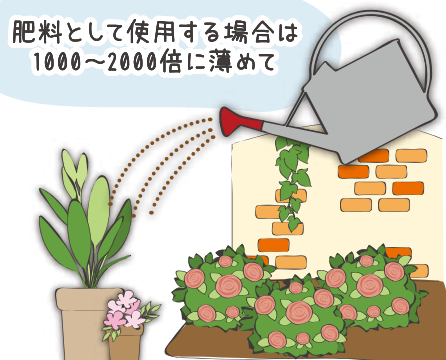


● EM生ごみ発酵液

・薄めて花壇や鉢植えでつかう

EM生ごみ発酵液を、花壇や鉢植えの肥料として使用する場合は、週に1回程度1000～2000倍に薄めて散布して下さい。

EM生ごみ発酵液の中では、EMが様々な栄養素をエサにしてその活動が活性化された状態になっています。しかし、空気に触れると悪臭が発生しやすく、発酵液そのものが変質することがあります。このため、たまったEM生ごみ発酵液は、できるだけ早く使用しよう心がけましょう。



お問い合わせ

株式会社 EM研究所

EM研究所

検索

〒421-1223 静岡県静岡市葵区吉津 666

TEL : 054 (277) 0221 FAX : 054 (277) 0099

URL : <http://www.emlabo.co.jp>

フリーダイヤル

0120-309-831

サンキュー やさい

<受付時間>

9:30 ~ 17:00 (平日)

